

荒島岳・大日ヶ岳山行報告書

(山域) 福井の山：荒島岳 岐阜の山（大日ヶ岳）

(コース)

3/11：勝原スキー場跡～しゃくなげ平～もちが壁～中荒島岳～荒島岳～勝原スキー場跡

3/12：高鷲スキー場：ゴンドラ山頂～前大日～大日ヶ岳～ゴンドラ山頂

(日時) 3月11（土曜日）～3月12（日曜日）

(天候) 3/11 晴れ後、高曇り（弱風）・3/12：快晴（微風）

(参加者) CL：内堀（記録）・小宮山

(山行タイム)

3/11：登山口 8:05～中荒島岳 12:25～荒島岳 12:50～中荒島岳 13:15～登山口 15:45

3/12：SPゴンドラ山頂 8:40～大日ヶ岳 9:45～SPゴンドラ山頂 10:50

(山行報告)

3/11

金曜日の夜、幕張本郷駅 21:00 頃待合わせして出発する。移動時間が長いので早目の到着を目指す。首都高・中央道を進み、松本 IC を 12:10 頃通過出来た。ここより一般道にて沢渡・平湯・高山を抜け道の駅「ななもり清見」に到着する。時間 2:00 頃で此処までが本日の限界。ここで仮眠する事を決める。翌朝 5:30 に起床して朝食も取らず出発する。車の中での朝食である。

中部縦貫道に乗り、白鳥 IC～油坂峠 IC を抜け九頭竜湖を目指す。車の通りは少なく寂しい。九頭竜湖を超え道の駅「九頭竜湖」でトイレタイム。長いな、まだ 18 Km ある。7:40 頃ようやく勝原スキー場に到着する。入り口が判らず勝原駅までスルーしてしまったが元に戻り入口を見つけ車を進めたが、駐車場に車が多くギリギリ止められた。既に 25 台近くが駐車していた。

人気の山なのかな？ 駐車場にあるトイレは封鎖しており使用禁止であった。残念である。スキー場跡のためか、広い面がある。駐車場から積雪はあり登り始めから 50cm の雪がある。トレースはバッチリで早く登れることが期待できる。ツボ足でガンガン登り、休憩を挟み 2 時間手前標高差 800m 登った所で、人込みが増え始め渋滞に巻き込まれる。何で遅いのかなと思い、先頭集団を見るとラッセル地獄で中々進んでいない様である。あら大変？ 本来、荒島岳はブナが沢山あり、原生林の山と思っていたが、木がまばらである。しゃくなげも全く見えない。この頃になると深い所で 3m 以上の雪と思われる。トレース道も深く 50cm 近く落ち込み、その下も 1m 以上は有ろうかと思われる箇所が確認出来た。この頃になると 30 人近い人たちが踏み固め歩きやすい状態になっていたが。やはり雪もモサモサ状態で沈み込みが深くなってくる。途中、慌ててワカンをつけ登り始める。先頭集団は、猛烈なラッセル地獄でゆっくり進んでいくしかない。もちが壁途中で先頭集団のお兄ちゃんは疲れ果てて下山してしまった。ご苦労様です。何時の間にか我々も先頭集団になり急登で、ワカンが雪に掛らずひと苦労する。もちが壁途中よりアイゼンをつけピッケルに持ち替えて、進むがやはり、中々進まない。何時の間にかまた先頭集団である。5 人目でも意外と雪に沈み込む。小宮山さんはアイゼン＋ワカンで先頭の後を綺麗にルートが確保される。それでもアイゼンでは沈み込みがある。運転疲れと寝不足から疲労困憊状態。最後の急登を上がった後はスムーズに山頂に到着する。先頭 4 人には感謝の言葉を掛け有難うございました。山頂標識が見つからずウロウロしてようやく見つけた。雪にスッポリ埋まった標識先端が申し訳ない程度にあった。ここが山頂標識と声を出すと、周りの人達も寄って来て、各々記念撮影をする。その間もドンドン山頂は人込みの中にある。30 人以上は居るようである。我々も記念撮影と周りの景色を堪能する。風はあるが耐えられないものではない。遠くには白山が見えた。今まで雪山の中で一番の感動である。ここまで雪のある雪山は初めてである。越前大野の街並みがひととき美しく。小山の上に立つ越前大野城は見事であった。山頂での休憩は寒さに堪えるため、下山を開始する。もちが壁を無事下山してシャクナゲ平手前で休憩を取る。しゃくなげはまったく見えない。休憩中、木に積もった雪が落ちて来て小宮山さんを直撃する。全身雪だらけである。些細な出来事を楽しみながら下山を続ける。その先にテント場適地と思われる箇所があった事を

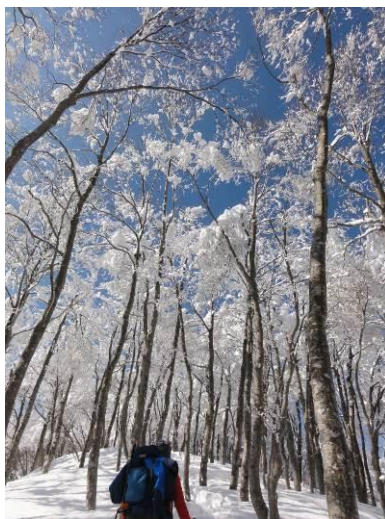
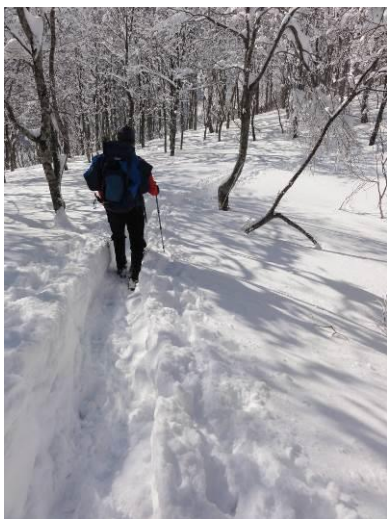
思い出し、注意して通過すると、やはり皆考えることは同じである。既にテントが2張、張られていた。往路と違い急坂以外はかなり踏み固められ、歩き易い状態になっていた。休憩を挟みスキー場が見えた時には、ヤレヤレと思い疲れが出てしまった。今回の勝原コースは、距離は短い、標高差1250mを一気に上り、下る物である。全体的には急登であり、もちが壁は更に急登になっていた。トレースがある事の有難さが実感した。ラッセル泥棒とは良く言ったものである。駐車場からは元来た道に戻り、九頭竜湖でトイレ休憩を済ませ、白鳥（しろとり）市内で夕食を買い出し、湯の平温泉に向かい登山の汗を流す。スキー客でゴッタ返し湯船の中はイモ洗いで、久々に足を組んで入る温泉であった。25分後には大半の方が出てゆっくり浸かる事が出来た。温泉後は、道の駅「大日ヶ岳」に向かい、テントを張りディナーを頂いた。少しの酒で回り、長い時間起きていられず、21:20頃には就寝してしまった。1日が長かった。

帰宅後、ヤマレコで調べた所、3/11投稿者3名で、一番早い組が入山：6:30・下山：15:45
遅い組が入山：9:00・下山：16:00前とほぼ同じ時間で、やはり、先頭ラッセル組は大変な思いでトレース作りをしたようです。

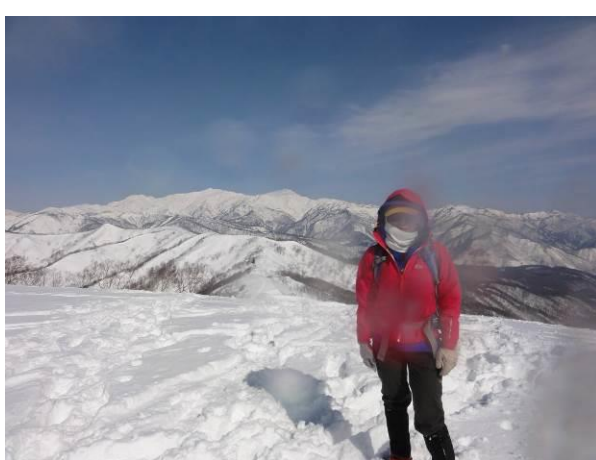
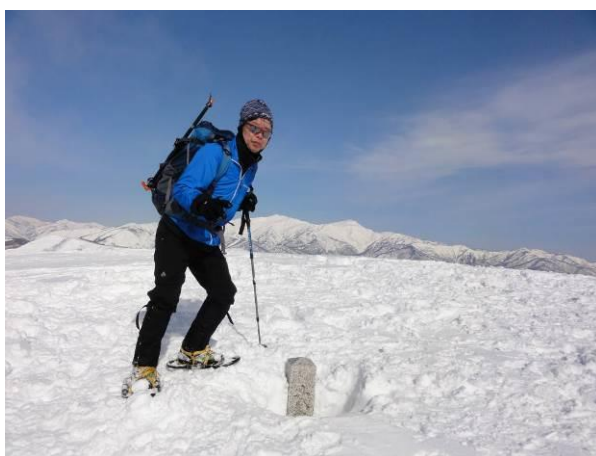
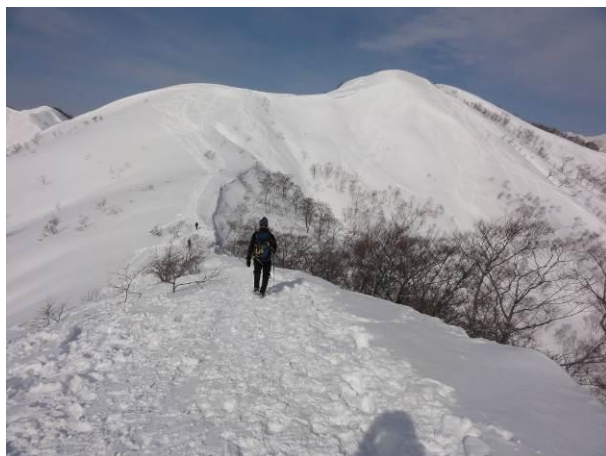
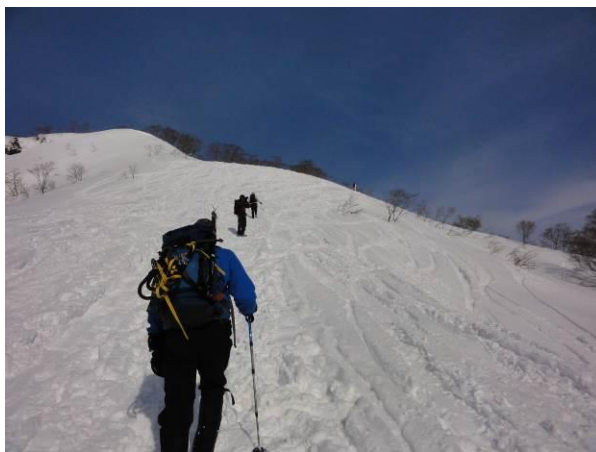
3/12

早朝6:00前に起床して食事の準備を行う。朝食後は登山準備を済ませ、高鷲（たかす）スキー場を目指す、5分程度で到着する。早い時間にもかかわらず物凄い数の車である。デズニールンドの如く駐車スペースに誘導される。1000台近く止められそうであった。駐車後は登山靴を履き、出発である。インフォメーションセンターに行き、登山届を頂き、引き換えにSP Gondola券を購入するシステムである。草津白根山の様に一人一人記入ではなく代表者、メンバー記入チケットを携え、SP Gondolaに向かい順番待ちをする。システムが良いのかドンドン流れて行き、先頭に立ちGondolaの中に、座るのではなく立ち座りのようなもので、人は多く乗れているようである。元々スキー場の標高が高く、Gondola山頂駅は1400m近く上ってしまった。文明の利器があるとは有り難い物である。登り口にガイド登山と思われる集団と男女2人組がいた。準備終了後、まずはツボ足で上がり始める。やはり標高が高いせいか雪がモサモサで部分的には沈み込みがある。ガイド登山グループを避けるため、右のトレース道を進むが、スノーシュートレースのため、ツボ足では膝上まで沈み込み昨日の疲れから足が上がらない。途中よりアイゼンと思ったが、ワカンを着装して進む。最初から付けたほうが良かった。沈み込みが少ない。順調に進み1h程度で大日ヶ岳山頂に立つことが出来た。我々2番手での到着であった。昨日の荒島岳より200m高いせいか360度遮るものはない。目の前に御嶽山・乗鞍岳・北アルプスが見える。何時も見er景色と違い、穂高が右に見える。槍・剣岳まで見える。近くを見ると白山がドーンと見える。ひときは白く見える。更に左側に経ヶ岳・更に左側に昨日登った荒島岳が見えている。何時見る景色と違い、下界が良く見えるが何時もは黒い景色ですが、昨日と今日は下界も真白の景色である。盛岡に居た時を思い出し、これぞ雪国・雪山と実感する。ここも標識は先端が辛うじて見える程度である。山頂からの景色は、大日ヶ岳の方が1枚上に感じた。荒島岳は登る楽しみであった。見る楽しみも良い物である。プチ雪山山行でここまで見える眺望は嬉しい限りである。山頂で楽しんでいたら、ドンドン人が登ってくる。遠くのルート上にも人ばかりである。2/3はBCメンバーであり、BCの盛んな山であることが伺える。天狗山と思っていたが、荒島岳・大日ヶ岳同様に2-3日前から降った雪のため、トレースはすっかり消えてしまっている。時間的に厳しいので、本日の山はここで終了。下山を開始する。あっという間にGondola山頂に到着。途中、小宮山さんの手袋が無くなり探したが見つからなかった。予備の手袋は持参していたため、問題はなかった。帰りもSP Gondolaに乗りスキー場を下りながら、滑り易くこの長いコースを一度は滑って見たいものと思った。帰りは温泉の時間も惜しみ、諏訪湖SAの温泉に入ろうと飛ばすものの、残念ながら3/22まで休業看板あり、先を急ぎ小仏の渋滞もほんのわずかで済み、7:30頃には自宅に到着した。

今年は雪の多い山に登りたいと計画したが、雪の多い雪山はなく残念であったが、今回の雪山はこれぞ雪山と実感出来た。大日ヶ岳から見た、白山を来年は登るぞと息巻く自分がいた。









以上